



▶ 美術館活動



遠藤ミマン 〈赤い帽子〉



砂田友治 〈食車〉



能登正智 〈湿原・家族〉



鹿毛正三 〈紅葉の樽前山〉

当館では、次の3つの柱を軸に美術館活動を展開し、苦小牧の文化芸術を内外へ発信していきます。

- 1 市民に開かれた美術館
- 2 子どもたちの感性を育む美術館
- 3 文化芸術活動の拠点としての美術館

● 所蔵作品の活用

苦小牧の文化芸術の振興に貢献した遠藤ミマン(1913~2014)、砂田友治(1916~1999)、能登正智(1922~2001)、鹿毛正三(1923~2002)をはじめとする郷土作家の作品を活用し、企画展や収蔵品展の開催、鑑賞プログラム等をおこないます。

● 所蔵品検索システム

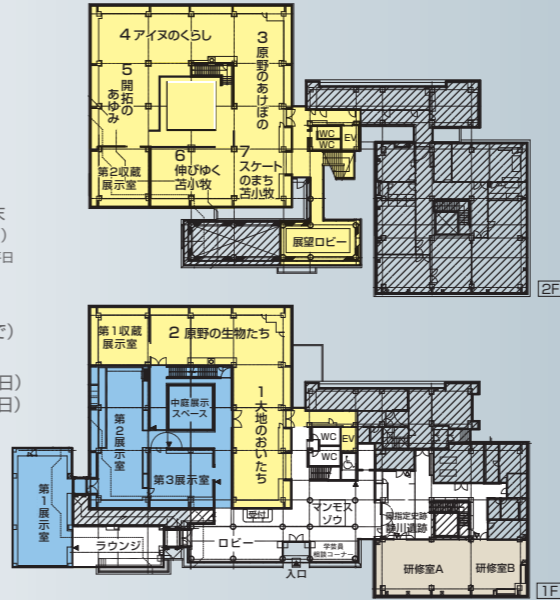
「苦小牧市デジタルミュージアム」の公開  
館内無料スペースに当システムを設置し、所蔵作品及びその作者に関する情報を公開しています。作者名、作品名、種別・テーマの3項目による検索が可能です。

● 「中庭展示 - Court installation -」の開催

市内及び胆振・日高管内で活動している作家をはじめ、優れた作品を発表し続けることにより、高い評価を得ている作家の立体作品を、中庭展示スペースにおいて紹介します。

このほか、文化芸術活動の拠点として、各種教育普及事業をはじめ内外の交流をいかした特別展を開催するなど広域的な美術館活動に取り組みます。

Tomakomai City Museum



■ 休館日  
毎週月曜日・年始年末  
(12月29日~1月3日)  
※月曜が祝日の場合は次の平日

■ 開館時間  
9:30 ~ 17:00  
(入館は16:30まで)

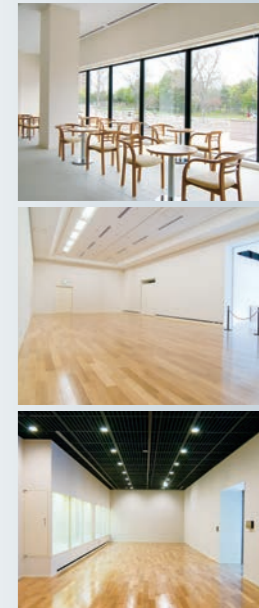
■ 無料観覧日  
5月5日(こどもの日)  
11月3日(文化の日)

観覧料

- 一般 300円(240円)
- 大・高校生 200円(140円)
- 中学生以下無料

※ ( ) 内は10名以上の団体料金  
※ 観覧料の免除規定がありますのでご相談ください。  
※ 年間観覧券(一般900円、大・高校生600円)もあります。  
※ 特別展の観覧料はその都度定めます。

■ 無料スペースのご案内 [白色]  
1Fのロビー、ラウンジ、国指定史跡静川遺跡の展示コーナーについては、観覧料のお支払いは必要ございません。どうぞご覧ください。



# 1 大地のおい立ち



苦小牧には樽前山、ウトナイ湖など豊かな自然が残されています。このコーナーでは北海道そして苦小牧の大地が形成されるまでの約1億年にわたる、壮大な自然史のドラマをさまざまな化石や地層模型、二重根などに学ぶことができます。

## ●北海道のおいたち

北海道の地史をアンモナイトをはじめ地質時代ごとの代表的な化石で知ることができます。

## ●火山活動

実物大柱状模型で、樽前山の火山活動や地質の成り立ちについて知ることができます。

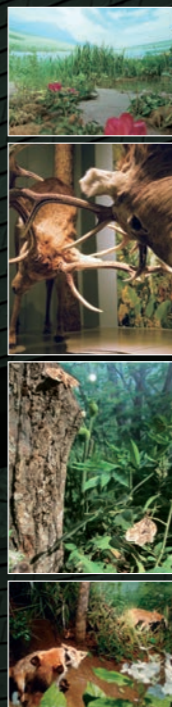
## ●石狩低地帯と周辺の地質

札幌～苦小牧を結ぶ低地帯の地質の特徴を立体地質図や岩石で見ることができます。

## ●二重根

最初の根が樽前山の火山灰に埋もれた後、新たな根を出した樹木を展示しています。

# 2 原野の生物たち



湿原や森に恵まれた勇払原野には、いろいろな種類の生物がすんでいます。展示では、正確に復元された大型ジオラマにより苦小牧に生息する生物たちの特徴や、生活している環境などを学ぶことができます。

## ●勇払原野の植物

勇払原野に見られる植物たちの夏の様子をジオラマで復元しています。沼、湿原などにおける代表的な植物種を見ることができます。

## ●湿原の野鳥

ウトナイ周辺で夏にみられる鳥の生活環境を見ることができます。一部の鳥のさえずりも聞くことができます。

## ●昆虫の世界

苦小牧に多く生息する昆虫の種類や、擬態の様子をジオラマで見ることができます。

## ●哺乳類

針広混交樹林帯に生息するヒグマ、エゾシカや、海の大哺乳類トド、オットセイなどの特徴や大きさを調べるができます。

# 3 原野のあけぼの



人類の進化や地球上に拡散した様子、旧石器時代から縄文時代までの市内の遺跡から出土した土器や石器、土偶や装身具などが展示されています。貝塚の断面模型や墓の復元模型などから大昔の人々の暮らしの様子を知ることができます。

## ●土器を調べる

壁一面に並ぶ70点の土器は時期により形や文様が変化する様子を知ることができます。縄文時代のクマの意匠付き土器（クマコブ遺跡）など貴重なものもあります。

## ●暮らしと祈り【土偶】

精霊や守護神を表現したとされる土偶。縄文時代の精神文化を知ることのできる資料ともいわれています。

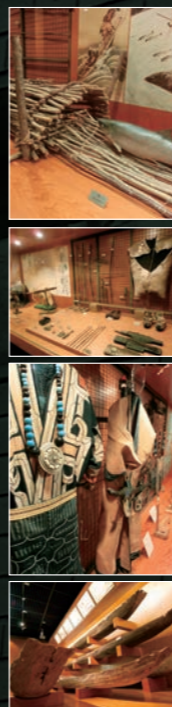
柏原18遺跡から完全な形に復元された土偶が見つかっています。

## ●装飾品

石を加工した飾り玉や勾玉。貝の腕輪や動物の骨を加工したかんざしなどがあります。

静川22遺跡の墓からコハクの玉を千点以上つなげた首飾りが見つかっています。

# 4 アイスのくらし



アイヌの人々は北の厳しい風土のなかで、豊かな大地の恵みを大切に、まさに自然と共生し独自の文化を築いてきました。そのくらしのかつての様子を、衣・食・住、狩猟、漁労、採集、儀礼・信仰などの民具を通して知ることができます。

## ●狩りと漁

サケは大変利用価値の高い魚で、身は食料に、皮は靴に活用されました。まさにカムイ・チュブ・神の魚と呼ばれるにふさわしい魚です。

## ●衣服と飾り

アツツシ・樹皮衣や木綿衣などの背やえり口、袖口にはモレウ・うずまき文やアイウシ・かつこ文などが施されています。

アイヌ文様には民族の精神文化が込められています。

## ●埋まっていた舟

昭和41(1966)年に5艘の丸木舟が沼ノ端で発掘されました。3艘は河川用のチブで、2艘は海用の板つづり舟・イタオマチブでした。600年以上前のもので、北海道の有形文化財に指定されています。

# 5 開拓のあゆみ



八王子千人同心による勇払開拓やイワシ漁業の繁栄、開拓使による地図の作製、製紙産業の進出など江戸から明治時代にかけての苦小牧は大きな変革の時を迎えました。勇払から苦小牧へと街の機能が移転し、現在の街の基盤ができる過程を貴重な資料と古写真を通して知ることができます。

## ●北前船の来た湊

錦岡沖の海中から発見された約3mの和船の礎は、近世の北前船による交易を立証する貴重な資料です。

## ●開拓使三角測量勇払基点

明治6(1873)年、開拓使は勇払～鶴川間に基線を設け、それをもとに三角測量により正確な北海道地図を作成しました。日本測量史を語る上で重要な北海道指定史跡「開拓使三角測量勇払基点」に関する資料が展示されています。

# 6 伸びゆく苦小牧



自然と近代工業の調和がとれた苦小牧市。その礎は大正から昭和にかけての苦小牧港築設をはじめとする先人の努力により築かれました。マルチビジョン室では、江戸時代から現在に至る街の歩みや新しい時代の展望に立った街づくりの様子を映像とナレーションで伝えます。

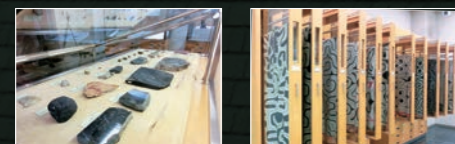
# 7 スケートのまち苦小牧



湿地が多く、冬期に雪が少ない苦小牧では天然のリンクに恵まれ、大正時代から住民の冬のレジャーとしてスケートを楽しむ文化が定着し、多くの優れた選手を輩出しました。その歴史と発展の様子を紹介します。

## ●スケートの発達

下駄を加工してブレードを取り付けた下駄スケートは、スケートが古くから住民の身近にあったことを伝えています。



## ■第1収蔵展示室(1F)

貝、昆虫、鳥、哺乳類などさまざまな生物の化石や標本。

## ■第2収蔵展示室(2F)

アイヌ民族の衣服装飾品、郷土のさまざまな生活資料。



## ■国指定史跡 静川遺跡

苦小牧の東部に位置する静川遺跡。全国初の縄文時代の「環壕」が発見され、国の史跡に指定されています。環壕は幅2～3m、深さ平均1mの溝を139m巡らせています。出入口が2か所、内には2棟の建物跡があります。「聖域」＝マツリの場と考えられています。

## ■愛称「あみゅー」について

2013年5月、美術館が市民に長く親しまれ愛される施設とするため、博物館と美術館の複合施設であることを意識した、文化の交流・発信・創造の拠点としてふさわしい愛称を公募しました。その結果、148点の応募があり、厳正な審査の結果、アートとミュージアムの融合を意図した「あみゅー」に決定しました。



## 苦小牧市美術博物館【愛称：あみゅー】

〒053-0011 北海道苦小牧市末広町3丁目9番7号  
TEL 0144-35-2550 / FAX 0144-34-0408

- アクセス/道南バス「出光カルチャーパーク」下車徒歩5分
  - 駐車場/出光カルチャーパーク内の南側駐車場をご利用ください。
- 公式ホームページ <https://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/>  
[www.facebook.com/tomakomai.museum](http://www.facebook.com/tomakomai.museum) [twitter.com/tomakomai\\_amyu](https://twitter.com/tomakomai_amyu)